

## 平成 26 年度 【 学園研究費助成金 &lt; B &gt; 】 研究成果報告書

学部名 人間関係学部

フリガナ ニシデュミエ  
氏名 西出弓枝

研究期間 平成 26 年度

研究課題名 青年・成人期にある発達障害者の社会適応能力育成ワークシートの作成

## 研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	西出弓枝	人間関係学部	教授
研究分担者			
研究分担者			

## 1. 本研究開始の背景や目的等 (200 字～300 字程度で記述)

近年、成人（青年期後期以降）を対象とする医療機関においても、自閉性障害を中心とした発達障害者の支援が課題となってきた。筆者が関与してきた福祉機関・教育機関・医療機関における来談者においても、発達障害者の割合は低くなく、その社会性の障害に対する支援が課題となっている。このような対象者は、感覚過敏や他者視点取得困難、社会的存在としての自己意識の発達の障害などさまざまな課題を抱えているため、面接場面や訓練場面、日常生活場面においても、その知的能力水準に比して未成熟な反応を呈しやすい。

そこで、本研究ではチェックリストを用いた客観的な指標を活用しつつ、社会適応能力に応じた適切な自己評価を加えつつ、課題を達成できるようなワークシートを試行的に作成し、医療機関・職業訓練期間などで活用できる発達障害者支援に活用することを目的とする。

## 2. 研究方法等 (300 字程度で記述)

本研究は実践的基盤の抽出から進めることとし、青年期以降の発達障害者に対する SST や支援事例を抽出することから開始した（5 月～11 月）。また、筆者が担当した知的障害を伴わない青年期以降の発達障害者 8 事例の面接経過から社会適応上の課題（ニーズ）の抽出を行った（5 月～2 月）。そのなかから、就労支援に関連する課題を整理し、11 月に実施した「発達障害の基礎知識—就労支援のポイントを知る—」というハローワーク職員やサポートステーション職員など青年期以降の就労支援に携わる方向けの講演資料として作成した。

また、課題の抽出後に、面接時に課題を共有できた事例に対して、課題を明確化した後家庭場面において具体的な取り組みを行い、その評価をもとにワークを構築した。

### 3. 研究成果の概要 (600 字～800 字程度で記述)

筆者が面接を担当した知的障害を伴わない青年期以降の発達障害者 8 事例(青年期 3 事例[家族面接]を含む。対象者の年齢範囲は 14 歳～48 歳であり、性別は男性 4 名、女性 4 名であった)の面接経過について、カルテを参照し、社会適応上の課題(ニーズ)を抽出した。面接期間は、6 か月～9 年であったが、経過が長いものについては、最近 3 年間の経過を参照した。また、対象者のなかで、就労経験のある者(アルバイト・パートなど非正規雇用を含む)は 5 名であった。

抽出されたニーズは、認知的側面・行動特性・対人関係の 3 つに分類された。認知的側面においては、能力のアンバランス・文脈が読めない・概念理解の困難・一般とは異なった意味理解の仕方・語用論上の困難・本質を理解する困難・メタ認知の困難・見通しを立てる困難などが見出された。また、行動特性においては、まわりくどい説明・こだわりの強さ・幼稚な関心と行動・注意集中の困難・切り替えの困難・複合的行動の困難・発達段階に応じた社会的活動の困難・孤立的行動・趣味への没頭などが見出された。対人関係については、他者と適切な距離を保つ困難・共感的理解の困難・報告、連絡、相談の困難・困った状況で固まる・イニシアティブをとることの困難・共同作業、共同生活の困難などが見出された。

面接経過から抽出された上記のニーズに対して、対象者本人の困り感に応じた支援を構築するため、面接が継続中の 2 事例を対象に、現状において具体的に課題を生じていると本人が認識している事象を抽出し、それに対して、課題の解消法を提示するだけではなく、具体的に次の面接までに行えるようなワークを設定し、その評価に基づいて次回のワークを設定するという方針で 12 月より面接を行ってきた。本年度は課題の抽出に時間を要したためワークシートの作成にいたっていないが、上記ニーズを包括するような汎用性のあるワークシートを検討中である。また、ニーズとその支援法については、「発達障害の基礎知識—就労支援のポイントを知る—」として、11 月青年期以降の就労支援に携わる方向けの研修資料を作成した。

### 4. キーワード (本研究のキーワードを 1 以上 8 以内で記載)

① 発達障害	② 青年期	③ 成人期	④ 社会適応能力
⑤ ワークシート	⑥	⑦	⑧

**5. 研究成果及び今後の展望** (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他○名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

抽出された課題については、平成 27 年度発行予定の椋山女学園大学人間関係学部発行の紀要人間関係研究に投稿予定である。